

三重大学COEプロジェクト研究報告書

区 分	<input type="checkbox"/> 世界に誇れる世界トップレベルの研究拠点 (旧COE-A) <input checked="" type="checkbox"/> 学部として育てたい国内トップレベルの研究 (旧COE-B)
研究題目	四日市公害問題の再評価と国際環境協力 (四日市学) を通じた総合環境研究及び環境教育拠点づくり
研究代表者	朴 恵淑 (人文学部教授)
研究の目的等 ① 目的 三重県唯一の国立大学であり、総合大学としての三重大学の特色を活かし、人文学部を中心としながら、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部との学問横断的な総合環境学としての「四日市公害問題の再評価と国際環境協力 (四日市学) を通じた総合環境研究及び環境教育拠点づくり」プロジェクトは、次の二つの目的からなる。 (1) 地理学、社会学、法学などの人文社会科学、生物学などの自然科学や工学、公衆衛生学などの医学を横断的に繋ぐ全学的取組による総合環境科学研究を推進する。 (2) 四日市公害の教訓を活かした人間学・持続可能な未来学・環境教育学・アジア学からなる「四日市学」を構築し、共通教育における実践的環境教育の実施及び、産学民官との連携によるネットワーク型環境教育拠点づくりを目的とする。	
② 特色 本プロジェクトの特色として、次の三つが挙げられる。 (1) 本プロジェクトの構成員が人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の全学部の教員となっていることによって総合環境科学的研究が可能となる。また、共通教育の総合科目としての「四日市学」の実施は本学教員だけでなく、産学民官のセクターから講師を招き多様なテーマの環境教育が実施できる。例えば、本学の教員の他に、四日市公害病患者、四日市公害の語り部、三重県職員、企業 (中部電力、シャープ) が講師を勤める。 (2) 総合環境科学研究及び環境教育の成果について、毎年、国際環境シンポジウム「四日市学」を開催する。本学の教員だけでなく、韓国、中国、極東ロシアから環境科学の専門家や環境 ISO 学生委員、企業、行政関係者をパネリストとして招き、地域や近隣諸国の環境問題の現状を把握すると同時に、研究成果や環境教育の成果を内外に発表し、本学及び地域社会への還元を図る。また、成果を単行本として出版し、学会誌へ投稿する。 (3) 環境教育プログラムの開発を三重県環境森林部及び NPO (三重総合環境センター)、との協働によって行い、実践的環境教育 (環境インターンシップ) を行う。一方、かつて日本の四大公害の水俣病、イタイイタイ病、新潟水俣病の研究者、東アジアの韓国、中国、極東ロシアの研究者との連携による認識共同体を構築し、ネットワーク型環境教育の拠点づくりを行う。	

③ 重要性・発展性

本プロジェクトで提唱している「四日市学」は、単に四日市に限られた概念・学問体系ではなく、社会的弱者に被害の及ぼす社会構造に対する環境倫理（正義）を問う「人間学的研究を行う。法学的側面からみると、憲法での生存権問題、刑法での環境犯罪的側面、環境法や国際法からの環境政策的側面、社会学的側面からは社会福祉、企業倫理のあり方についての研究成果が期待できる。また、公衆衛生学的側面、自然環境学的側面から大気汚染や水質汚染の現状及び対策究明、公害問題を克服した四日市市及び三重県が安全・安心な快適環境居住地域として再興するために、有効な環境政策を提言していく「持続可能な未来学」的発展性が見込まれる。さらに、四日市公害を経験していない学生に環境破壊による生き物への悪影響や環境再生のあり方について学び、地域に還元できる仕組みづくりのための「環境教育学」の構築、公害問題を体験した四日市からアジアや世界に向けた国際環境協力のあり方を問い、国際環境協力の拠点づくりの有効なツールとなる「アジア学」が構築できる。

本プロジェクトの重要性・発展性について、次の三つが挙げられる。

- (1) 四日市公害の発生、影響、対策、近未来像を探ることによって、実践的環境教育の教材プログラム開発、適用、改善が期待できる。特に、教員による一方的環境教育から教員（地域からの講師を含む）と学生との双方向的環境教育が可能となる。
- (2) 四日市公害の経験や教訓が活かされ、東アジア地域の国際環境協イニシアティブが取られる戦略的拠点を創る。具体的に、21世紀において環境問題が最も懸念される東アジアの韓国や中国、極東ロシアの環境問題の解決に際して、本学と国際交流を行っている韓国の梨花女子大学校及び東国大学校、世宗大学校、中国の北京大学や延辺大学、極東ロシアハバロフスク州立経済・法律アカデミーの研究者との共同研究会及び国際環境シンポジウムを開催し、情報交換や共通認識を高める。
- (3) 韓国のウルサン、温山、麗水（川）の国家産業団地（コンビナート）地域、中国北東部の北朝鮮との国境地域、極東ロシアのハバロフスクの大気汚染及び水質汚濁地域は、四日市喘息や水俣病、イタイタイ病の複合型公害問題が顕在化しており、本プロジェクトの成果は民間レベルでの国際環境協力が即適用できる有効な手段となる。

④ 学術的・社会的意義など

学術的意義として、人文社会科学分野のみならず自然科学及び医学を横断的に繋ぐ全学的取組による総合環境科学的研究が推進され、四日市公害の教訓を活かした人間学・持続可能な未来学・環境教育学・アジア学からなる「四日市学」が構築されたことが主な成果となる。また「四日市学」に基づき、共通教育における実践的環境教育の実施及び地域との連携によるネットワーク型環境教育拠点づくりができたことに、大きな学術的意義がある。

社会的意義として、四日市公害が単に過去に起きた公害問題（環境問題）で、解決済みの環境問題として位置付けるものではなく、本プロジェクトによって、四日市公害を経験

した三重県が四日市公害の教訓を活かした環境先進県に変わるための、社会経済的側面や教育的側面から何をすべきかを提案できる、シンク・タンクの機能をも合わせ持つことに大きな社会的意義がある。

研究の成果等

① 当初目的に対する成果

本プロジェクトは、次の二つの側面からの成果が得られたが、書籍及び学会への論文などの出版物によって、国内のみならず海外へのアピールがはかられた。

(1) 「四日市学」は、四日市コンビナートが20世紀型環境汚染コンビナートの終焉から21世紀型環境保全コンビナートとして再生するための戦略的ツールとしての役割が担えることが明らかになった。本プロジェクトの構成員は、韓国有数の国家産業団地（コンビナート）であるウルサン、温山、麗水（川）産業団地において、韓国ウルサン大学、梨花女子大学、東国大学、世宗大学、中央大学、全南大学麗水キャンパスの環境経済学、水文学、大気環境学、環境政策の専門家との国際共同研究チームを構成し、年に2回の集中観測や実測、現地調査を行った。

その結果と四日市周辺の海岸及び内陸での土壌調査、水質調査、降水量調査、大気汚染調査などを通じた資料の分析を行い、大規模の公害問題が発生された後、約30-40年経過後の生態系へ及ぼす環境問題へメカニズム、影響、環境政策について「四日市学」が有効なツールであることが判明された。

(2) 東アジアの火薬庫と呼ばれている中国と北朝鮮との国境地域を流れる国際河川の豆満江流域は、北朝鮮と中国の北東部（旧満州地域）、極東ロシアを結ぶ国境の三角地域であり、また、日本に大気汚染による深刻な健康被害を及ぼす黄砂の移動経路に当たる地域である。過去の四大公害を遥かに上回る大気汚染や水質汚染、重金属汚染、森林破壊などの環境破壊が急激に進み、平和的環境管理が早急に必要地域としてUNEPやUNDP、UNESCOからも指摘されている。しかし、これらの地域は政治、経済、社会的に混乱な地域であるため、国レベルにおいては有効な国際環境協力が難しく、研究者を中心とした民間レベルでの国際環境協力が必要不可欠とされている。国益を越えた地域益で取り組むパラダイムの転換や、行政、企業、市民、環境団体、大学、メディアなど各セクター間の共通認識を高める「認識共同体」の形成や環境モニタリング調査によって、日本の環境を守るための基礎調査が可能となり、国際共同研究の基盤づくりができた。

② 研究活動から得られた新たな学術的知見

本プロジェクトで提唱している「四日市学」のうち、社会的弱者に被害の及ぼす社会構造に対する環境倫理（正義）を問う「人間学」が構築されたことにより、法学的側面から憲法での生存権、刑法での環境犯罪、環境法や国際法からの環境政策、社会学的側面から社会福祉、企業倫理のあり方についての研究が進められた。例えば、環境犯罪や企業倫理に関する学術的知見は、環境研究の新たな地平を開くこととなる。環境地理学側面において、産業活動が自然へ及ぼす影響分析、環境政策の樹立に有効なツールとなることが分か

った。

四日市公害問題を経験した四日市市及び三重県が安全で安心な快適環境居住地域として再興するために提言していく「人間学」「持続可能な未来学」「環境教育学」「アジア学」が構築され、快適環境都市の指標とし人文社会科学、自然科学、工学、医学の学問横断型総合環境学の有効性が明らかになっていることから、今後の発展が多いに期待できる学術的知見を得た。

また、四日市公害を経験していない学生に環境破壊による生き物への悪影響や環境再生政策について学び、地域に還元できる仕組みづくりの実践的「環境教育学」が構築されたことは、新たな学術的知見である。「四日市学」が、三重県からアジアをはじめとした世界各地に環境ネットワークを活用した環境教育の拠点づくりに、日本のリーダーシップを促すツールができたことは、東アジアの持続可能な発展のための大きな貢献となる新たな学術的知見である。

③ 構成員の有機的連携（連携が保たれ活発な研究活動が展開されたか）

本プロジェクトの構成員全員は、各自の専門分野における研究のみならず、総合環境科学研究として仕上げるために、頻繁な共同会議をもち、研究状況や課題などについて情報共有を常にはかっていた。また、全員が「四日市公害から学ぶ四日市学」の講師を勤めていることから、環境教育の現状の把握や新たな教育プログラムの開発などに可能な機会が学問横断的に設けられ、総合的かつ有効な研究や教育活動が活発に展開された。特に、三重大学の構成員のみならず、韓国の梨花女子大学、東国大学、世宗大学、中央大学、全南大学麗水（川）の5大学、中国北東部の延辺大学、極東ロシアアバロフスクの経済・法律アカデミーとは、緊密なネットワークが構成でき、今後も引き続き、共同研究及び環境教育のプログラム開発が期待できる。

④ 学部のバックアップ体制

人文学部は、学部教員の研究をバックアップする体制として四つの研究センターが構築されているが、その一つに「総合環境研究センター」が位置付けられる。「総合環境研究センター」の主なプロジェクトには、「四日市学」「北朝鮮の環境問題と日中韓の国際環境協力」「東アジア・東南アジアの環境・文化研究」「東アジア諸国のバイオマス発電の基礎研究」などが設けられ、学部内の横断的、かつ総合的な研究や教育を担うことのできるシステムが整備されている。「総合環境研究センター」を有効に活用することで、本研究の円滑な遂行が可能となった。

⑤ 経費（効率的・効果的に使用されたか）

本プロジェクトの経費が効率的・効果的に使用されていることは、研究経費等執行額を参照されたい。

⑥ 今後の展望

これまでの研究及び教育における成果に基づき、次の八つの側面が今後の展望として挙

げられる。

(1) 四日市喘息の認定患者が現在約 600 名ほど生存しているが、高齢化が進んでいることから聞き取り調査委を急いでいる。四日市公害の体験に共づく生の声や官許言う問題の悲惨さの記録、二度とくりかえさないために何が必要なのかを明らかにする必要がある。

(2) 三重県の大気汚染測定局の資料収集や分析による大気汚染の現状把握及び GIS (地理情報システム) による地理的分布が把握でき、大気汚染を防ぐための適格な情報が得られる。

(3) 共同研究として、韓国のウルサン・温山・麗水 (川) の国家産業団地 (コンビナート) での継続調査 (80 年代後半から温山病といわれる四大公害の複合型環境問題が発生しているが、韓国政府は単なる温山怪疾という見解) を行い、四日市喘息をはじめ、日本の四大公害との関連性や国際環境協力によるメカニズム解明に努める。

(4) また、中国の北朝鮮との国境地域の国際河川の豆満江流域の生態系及び水質調査 (日本の植民地時代からのパルプ工場 (開山屯) が現在も稼動されており、工場排水の処理がなされていないまま、豆満江へ垂れ流しとなっており、私達の試験的水質汚染の測定においても測定不能となっているほど、水質汚染が深刻な状況に置かれている) を引き続き行う。さらに、UNESCO の生態保存区域となっている長白山 (白頭山) 周辺の生態系調査及び中国北東部の大気汚染や水質汚染が深刻な産業団地調査、極東ロシアのハバロフスクの国際河川のアムル川の水質調査、ウラジオストクの大気汚染調査を行う。特に、ハバロフスク周辺の国際河川のアムル川は、中国黒龍江周辺の化学工場の爆発による河川汚染がアムル川まで至った経緯があり、環境汚染の越境性や広域化が深刻な問題となっている。私達は、豆満江流域の 4 時点とアムル川流域の 4 地点においてモニタリング調査 (定点観測) を行っている。工場の爆発前後の河川の汚染程度を比較できる絶好の機会を活かしてデータの収集や分析を行い、本プロジェクト修了後においても内外のジャーナルに論文を発表する予定である。

(5) 総合環境科学的研究及び環境教育の成果の発表の場として、本プロジェクトの修了後も国際環境シンポジウム「四日市学」を継続して開催する予定である。教員だけでなく学生及び地域の市民、企業、行政を含め、近隣の韓国、中国、極東ロシアから発表者を招き、環境問題についての知識の共有や情報を地域社会への還元することを図る。

(6) これまでの研究の総括及び環境教育の成果を単行本として出版する (四日市学研究と東アジアとの国際環境協力、2009. 12. に出版予定)。

(7) 教員及び行政 (三重県環境森林部)、三重県地球温暖化防止活動推進センターとの協働、並びに日本の四大公害の四日市喘息、水俣病、イタイイタイ病、新潟水俣病の研究者と東アジアの韓国、中国、極東ロシアの研究者との連携によって構築された「認識共同体」の活用により、ネットワーク型環境教育の拠点づくりをさらに強化する。

(8) 共通教育の「四日市公害から学ぶ四日市学」を引き続き開講する。環境教育プログラムの開発を三重県環境森林部及び NPO (四日市公害の語り部) との協働によって引き続き行い、学生主体の実践的環境教育 (ECO-移動教室) の充実化を図り、地理学会及び地理教育学会との連携により、アジアへの拡大をはかる。

⑦ その他特記事項（学内外に対しどのようなインパクト等を与えたか等）

「四日市学」に関する新聞やTVなどのメディアに掲載された記事を添付する。研究面と教育面、地域社会との連携の三つの側面に大別できるが、資料を参照されたい。

研究活動実績

- ① 発表論文（平成16～20年度に発表した本研究に関連した論文の著者名、論文名、掲載誌、巻号、年月、頁等を記入）【別刷を添付すること】
- (1) コンビナート（産業団地）周辺の大気汚染が児童への健康被害に及ぼす日韓の比較研究—「四日市学」の適用（2005）, 朴 恵淑, 人文論, 三重大学人文学部文化学科研究紀要 第22号, 2005.3, 155・175.
 - (2) 四日市公害問題の教訓と国際環境協力—韓国産業団地における公害問題の実態(2005), 朴 恵淑, 反差別人権研究みえ第4号, 三重県人権問題研究所, 2005.9月, 41・65.
 - (3) YOKKAICHI Studies Toward Environmental Advanced Region From Yokkaichi Air Pollution Area: Lessons of Yokkaichi Air pollution and Environmental Education (2005), Hye-Sook PARK, PROCEEDINGS The 12th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2005, Oct. 16-21, 2005, Zhenjiang, China, 80-85.
 - (4) 6OKKAICHI Studies for Promotion Environmental Education and International Environmental Cooperation by Lessons of Yokkaichi Air Pollution (2006), Hye-Sook PARK, Annual Report of Khabalovsk State Academy of Economics and Law, Khabalovsk, Russia, No. 4, 2006.2, 71-76.
 - (5) 人間と環境とのあらたな関わりのため—「四日市学」がめざすもの— (2004), 上野達彦・朴恵淑, 四日市公害を語る・観る・学ぶ・未来へ繋ぐ—三重四日市からアジアへ—四日市公害問題の再評価と国際環境協力—, 第4回国際環境シンポジウム・報告集, 2004.7.24, 1-10.
 - (6) 四日市公害から環境快適都市へ—四日市学の提唱— (2004), 上野達彦・朴恵淑, 四日市公害を語る・観る・学ぶ・未来へ繋ぐ—三重四日市からアジアへ—四日市公害問題の再評価と国際環境協力—, 第4回国際環境シンポジウム・報告集, 2004.7.24, 66-71.
 - (7) 四日市公害問題と大気環境教育 (2004), 朴恵淑, 四日市公害を語る・観る・学ぶ・未来へ繋ぐ—三重四日市からアジアへ—四日市公害問題の再評価と国際環境協力—, 第4回国際環境シンポジウム・報告集, 2004.7.24, 73-80.
 - (8) コンビナート（産業団地）周辺の大気汚染と児童への健康被害に関する日韓の比較研究 (2004), 朴恵淑, 四日市公害を語る・観る・学ぶ・未来へ繋ぐ—三重四日市からアジアへ—四日市公害問題の再評価と国際環境協力—, 第4回国際環境シンポジウム・報告集, 2004.7.24, 162-186.
 - (9) 北朝鮮と韓国との環境法比較研究—研究プロジェクト「日本と北朝鮮との国際環境協力のあり方に関する研究」から(Comparing Domestic Environmental Laws of North and South Korea: A Strategic Regional Study for Future DPRK- Jpana Environmental Cooperation, 環境政策学会 2004年大会報告要旨集, 2004.9.25-26, 広島大学, 114-115.

- (10) From Yokkaichi Air Pollution City to Eco-City- Case Study of Yokkaichi-City, Japan (四日市公害都市から環境都市へー四日市市の事例), Hye-Sook PARK, East-North Asia HUB and Eco-City Incheon: Vision and Role, 2004 International Symposium, Incheon, Korea, 2004. Oct. 8, 1-11.
- (11) 四日市公害を原点に未来へ・アジアへ(2005), 朴 惠淑, WAVE MIE UNIV., 31, 2005. 3. 6-7.
- (13) 地域環境教育の実態に関する調査報告書(2005.3.), 朴 惠淑, 四日市学総合環境センター, 2005.3, 77p.
- (14) 環境快適都市づくりと国際環境協力に関する研究 (2005.3.), 三重大学人文学部共同研究グループ, 197p.
- (15) Lessons from the Yokkaichi Air Pollution Experience and International Environmental Cooperation in East Asia, Park, Hye- Sook/ Mie University, Abstracts of Women's Worlds 2005 9th International Interdisciplinary Congress on Women, Women's Worlds 2005, June 19-24, 2005, Seoul, Korea, 155.
- (16) 人間学・未来学・環境教育学・アジア学としての「四日市学」ー四日市公害の現代的再評価とアジアの国際環境協力へ(2005), 第5回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2005年7月23日, 三重大学, 26-30.
- (17) Lessons of Yokkaichi's Air Pollution Experience and International Environmental Cooperation in East Asia (2005), 第5回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2005年7月23日, 三重大学, 31-32 & 105-109.
- (18) 四日市公害を原点に未来へ・アジアへ(2005), 第5回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2005年7月23日, 三重大学, 207-208.
- (19) 21世紀の水資源はBlue Goldとなるのか?!ー水環境保全の国際・国内政策・環境教育の側面ーWater Resource should be BLUE GOLD in 21th Century?!- Global and Regional Environmental Policy and Environmental Education concerning Conservancy of Water Environment-(2005), 朴 惠淑, 第4回川の日大会, 2005.8. 18-20, 韓国公州大学校, 137-143.
- (20) 四日市公害を聴くー四日市公害病認定患者・関係者の証言(2005), 反差別人権研究みえ第4号, 三重県人権問題研究所, 2005.9月, 67-71.
- (21) Approach Toward Environmental Advanced Region From Yokkaichi Air Pollution Area; [Yokkaichi Studies] Lessons of Yokkaichi Air Pollution and Environmental Education (2005), Hye-Sook PARK, Thre Second Japan-Korea Joint Symposium on Limnology; Environmental Education of Limnology for the Nex Generaion, 2005. Sept. 16-18, Osaka Kyoiku University, 28-29.
- (22) シンポジウム「実践的環境地理教育の素材発掘と将来展望」 Practical Education of Environmental Geography; excavations of subject matters and perspective (2005), 朴 惠淑・小林浩二, 日本地理学会発表要旨集, No. 68, 2005. 9. 17-19, 茨城大学, 19.

- (23) いまなぜ「四日市学」・「四日市公害を聴こう」としているのか？(2005. 10. 11.), 朴 恵淑, 反差別人権研究所みえ通信 No.2, 8-9.
- (24) 渚の文明論：海はだれのものか？ Civilization of the Shore: Who owns the Sea? (2005), 朴 恵淑, Hye-Sook PARK, 第3回伊勢・志摩海洋国際会議, ISE-SHIMA 3rd International Oceanic Conference, 2005.10.27-28, 伊勢市三重県営サンアリーナ, 14-15.& 45-58.
- (25) YOKKAICHI Studies for Promoting Environmental Education and International Environmental Cooperation by lessons of Yokkaichi Air Pollution (2005), Hye-Sook PARK, 第3回フォーラムブルースカイ資料集, 韓・米・日の地域別大気改善運動国際フォーラム, 2005.12.15, ソウル、韓国, 13-30.
- (26) 第12回3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウム参加報告書 (2005) The 12th Tri-University International Seminar & Symposium 2005, 朴 恵淑, 第12回3大学ジョイントセミナー・シンポジウムワーキンググループ, 14-17.
- (27) 「四日市公害の教訓は企業倫理に生かされているのか」(2006.3.11), 朴 恵淑, 反差別人権研究所みえ通信 No.4, 7.
- (28) 日本の四大公害からみるリスクー水俣病と四日市公害の事例から (2006), 朴 恵淑, リスク論を軸とした科学技術倫理の基礎研究, 平成16年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書, 2006.3, 88-89. 94-96.
- (29) 四日市公害の意義 (2006), 上野達彦・朴 恵淑, 四日市公害の現代的評価と東北アジア(日中韓口)の国際環境協力, 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書, 2006. 5, 1-33.
- (30) 四日市公害の大気環境的特徴 (2006), 朴 恵淑, 四日市公害の現代的評価と東北アジア(日中韓口)の国際環境協力, 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書, 2006. 5, 34-59.
- (31) Air Pollution and Health Damage in Japan- Lawsuits on Motor Vehicle Pollution (2006), Hye-Sook PARK, International Symposium Air Pollution Phenomena and Human Health issues in East Asian Countries, Seoul, Korea, 122-131.
- (32) The 10 Years of AANEA in Retrospect and Forward (2006), Hye-Sook PARK, International Conference of Atmospheric Action Network in East Asia, May 29, 2006, Seoul, Korea, 3-7.
- (33) 国際環境シンポジウム「四日市学」開催の意義(2006), 朴 恵淑, 第6回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2006年7月8日, 三重大学, 4-5.
- (34) YOKKAICHI Studies for Promoting Environmental Education and International Environmental Cooperation by Lessons of YOKKAICHI Air Pollution (2006), Hye-Sook PARK, 第6回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2006年7月8日, 三重大学, 10-15.
- (35) 負の遺産から新しい環境学の地平へ (2006), 朴 恵淑, 第6回国際環境シ

- ンポジウム・朴 恵淑, 第 6 回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学, 2006 年 7 月 8 日, 三重大学, 159-166.
- (36) 三重大学環境報告書 2006 (2006), 国立大学法人三重大学, 2006. 9. 30. 56p.
- (37) The Roles of ISO14001 for Environmental Education as University Social Responsibility (USR) (2006), Rieko YAMAMOTO and Hye-Sook PARK, PROCEEDINGS of 13th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 006, Oct.29-Nov.2, 2006, Mie University, Tsu, Japan, 184-187.
- (38) The Disaster Prevention Awareness for Reducing Human Damage by the Flood in the Sufferer Times (2006), Chiharu MIZUKI, Yojiro UTSUNOMIYA and Hye-Sook PARK, PROCEEDINGS of 13th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2006, Oct.29-Nov.2, 2006, Mie University, Tsu, Japan, 270-273.
- (39) きまぐれモンスーン(2006), 小野映介・朴 恵淑, 地理, VOL. 51, 2006. 12, 56-61.
- (40) Open Symposium III: A Consideration of Points of Contact with Geographical and Environmental Education from the View of Practical School Education (2007), Hye-Sook PARK, Geographical Review in English edition, 2007. 3.
- (41) 三重大学の社会的責任(USR) を果たす三重大学の取組(2007.3.1.), 三重大 X, vol.9, 2007 Spring, 25.
- (42) 公害県から環境先進県への取組—三重県の地球温暖化対策(2007), 朴 恵淑, 気候政策—国際・国・地域、人間・社会環境学の構築ワークショップ報告書 5 (シリーズ X) 5, 名古屋大学大学院, 50-60.
- (43) 四日市公害の現代的氷塊と東北アジア (日中韓ロ) の国際環境協力 (2007.5.), 平成 15 年度—平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B(2)) 研究成果報告書, 187p.
- (44) 「四日市学」の目指すもの (2007), 朴 恵淑, 四日市公害判決 35 周年記念 第 7 回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学—四日市公害問題の過去・現在・未来を問う 2007 年 7 月 14 日, 三重大学, 3-17.
- (45) 気候環境からとらえる四日市公害 (2007), 朴 恵淑, 四日市公害判決 35 周年記念, 第 7 回国際環境シンポジウム・報告書; 四日市学—四日市公害問題の過去・現在・未来を問う 2007 年 7 月 14 日, 三重大学, 93-99.
- (46) 三重大学環境報告書 2007 (2007), 国立大学法人三重大学, 2007. 9. 30. 84p.
- (47) 「四日市公害から学ぶ四日市学」(2007), 朴 恵淑, 日本地理学会 2007 年秋季学術大会予稿集, 熊本大学, 2007.10.5-7.,
- (48) ラオス・ヴィエンチャンにおける気候環境の特徴(2007), 朴 恵淑・小野映介 日本地理学会 2007 年秋季学術大会予稿集, 熊本大学, 2007.10.5-7.,
- (49) Global Warming: the Actual and Potential Impacts on Japan in a Historical Context (2007), Hye-Sook PARK, Oxford-Kobe Environment Seminar "The Environmental Histories of Europe and Japan", 11-14TH September 2007, Kobe

Institute, Kobe, Japan, 9-10.

- (50) Approach to Abolition of Plastic Bsgs in Mie University (2007), Shiori MATSUURA, Hye-Sook PARK and Ren AZUMA, PROCEEDINGS of 14th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2007, Oct.29-Nov.2, 2007, Chemai University, Chenmai, Thailand,
- (51) Role of Nagisa-Machi as an Entrance of Ysu-City fro Town-Promoting (2007), Maki FUJIKAWA and Hye-Sook PARK, PROCEEDINGS of 14th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2007, Oct.29-Nov.2, 2007, Chemai University, Chenmai, Thailand,
- (52) 四次元で描く地誌：ラオス・ヴィエンチャン平野の多様な資源利用とその背景； Four Dimension Geography- Multiple Resource-use and Its Background in the Vientiane Plain(2007), 野中健一・朴 恵淑・岡本耕平, 日本地理学会発表要旨集, No.72, 2007 年度秋季学術大会, 10 月 6 日～10 月 8 日, 熊本大学, 17p.
- (53) ラオス・ヴィエンチャンにおける気候環境の特徴； Climate- Environmnetal Characteristics in Vientiane, Laos (2007), 朴 恵淑・小野介, 日本地理学会発表要旨集, No.72, 2007 年度秋季学術大会, 10 月 6 日～10 月 8 日, 熊本大学, 27p.
- (54) 公害／環境問題を題材とした実践的環境地理教育； Practical Education of Environmental Geography, derived from Public Hazard and Environmental Problem (2007), 朴 恵淑・小林浩二・小野寺真一・鹿嶋 洋・西城 潔, 日本地理学会発表要旨集, No.72, 2007 年度秋季学術大会, 10 月 6 日～10 月 8 日, 熊本大学, 28p.
- (55) 四日市公害から学ぶ「四日市学」—実践的環境教育の構築； YOKKAICHI Studies Based on the Yokkaichi's Air Pollution Toward Establishing the Practical Environmental Education (2007), 朴 恵淑, 日本地理学会発表要旨集, No.72, 2007 年度秋季学術大会, 10 月 6 日～10 月 8 日, 熊本大学, 30p.
全学的な知財産創出プログラムの展開, 平成 18 年度活動記, 33-35.
- (56) 環境とエネルギーについて学ぶ地域社会に活かす人材育成プログラム (2008.3.), 朴 恵淑・奥山哲也, エネルギー環境教育成果報告書, 三重大学・中部電力, 1-6.
- (57) こどもたちの地球にできること—家計にも優しい ECO からはじめよう— (2008.4.8.), Justus, 1.
- (58) 「三重大学ブランド」としての環境人材育成の「環境資格支援教育プログラム」と環境 ISO 活動 (Education System oncern Environmnetal License Support) for Capacity-buildings as Mie University Brand) (2008), 朴 恵淑, 第 8 回国際環境シンポジウム報告集「四日市学」—四日市公害の教訓を活かす 21 世紀型地理教育・実践的環境地理教育を探る, 2008.7.20,9. & 2008 年度日本地理教育学会大会発表要旨集 (2008.7.20-21), 8.

- (59) 実践的環境地理教育としての四日市公害から学ぶ「四日市学」
(YOKKAICHI Studies based on the Yokkaichi Air Pollution Establishing the Practical Enviro- Geographical Education) (2008), 朴 惠淑, 第8回国際環境シンポジウム報告集「四日市学」-四日市公害の教訓を活かす 21 世紀型地理教育・実践的環境地理教育を探る, 2008.7.20,10. & 2008 年度日本地理教育学会大会発表要旨集 (2008.7.20-21), 39.
- (60) 地下水研究から四日市公害を考える (2008), 宮岡邦任・朴 惠淑・長屋祐一・竹中千里, 2008 年度日本地理教育学会大会発表要旨集 (2008.7.20-21), 15.
- (61) YOKKAICHI Studies based on Yokkaichi Air Pollution Problems and Enviromental Education (2008), 朴 惠淑, 第8回国際環境シンポジウム報告集「四日市学」-四日市公害の教訓を活かす 21 世紀型地理教育・実践的環境地理教育を探る, 2008.7.20,11-14.
- (62) YOKKAICHI Studies based on Yokkaichi Air Pollution Problems and International Enviromental Cooperation in East Asia (2008), 朴 惠淑, 第8回国際環境シンポジウム報告集「四日市学」-四日市公害の教訓を活かす 21 世紀型地理教育・実践的環境地理教育を探る, 2008.7.20, 15-18.
- (63) 東アジアの大気汚染抑制のための日中韓の環境政策と国際環境協力 (2008), 朴 惠淑, 大気環境学会シンポジウム-東アジア地域における国際的な環境負荷の移転と日本の役割(2008.7.14.), 東京, 12-17.
- (64) 東アジアの大気汚染抑制のための日中韓の環境政策と国際環境協力 (2008), 朴 惠淑, 大気環境学会誌, Vol.43, No.6, 356-357.
- (65) 日本における運河の発達と現状 (The Characteristics of Canals in Japan) (2008), 宮岡邦任・朴 惠淑, 韓国江フォーラム資料集, 第7回韓国江の日羅州大会, 東新大学校, 羅州, 韓国, 53-59.
- (66) YOKKAICHI Studies based on Yokkaichi Air Pollution Problems and International Environmental Cooperation in East Asia (2008), Hye-Sook PARK, 18th International Congress of Biometeorology, 22-26 September 2008, Tokyo, Japan, 76.
- (67) YOKKAICHI Studies Learnt from Yokkaichi Air Pollution Problems and Environmental Education (2008), Hye-Sook PARK, 18th International Congress of Biometeorology, 22-26 September 2008, Tokyo, Japan, 107.
- (68) 三重大学環境報告書 2008 (2008), 国立大学法人三重大学, 2008. 9. 30. 64p.
- (69) Environmental Activities of the Students ISO Committee in Mie University as an Environmentally Advanced University (2008), Mao INISHI and Hye-Sook PARK, Proceedings of the 15th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2008, Oct. 20-24, 2008, Jiangsu University, China, 18-21.
- (70) A Comparative Analysis on Environmental Issues Reported in the Asahi and

- Chunichi Newspapers of Japan (2008), Guoping and Hye-Sok PARK, Proceedingso of the 15th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2008, , Oct. 20-24, 2008, Jiangsu University, China, 66-69.
- (71) Ramsar Convention Wetland and Conservancy in Japan (2008), Hye-Sook PARK, The Symposium on Korea River Marsh, Ramsar Convention COP10, Oct. 31, 2008, Pullman Hotel, Changwon, Korea, 27-40.
- (72) 公開シンポジウム：学校と周辺地域を学びの場とする実践的環境地理教育 (“Practical Education of Environmental Geography” Based on Schools and Community As A Learning Field) (2009), 朴 恵淑・小野寺真一・梅村松秀・西城 潔・宮岡邦任・山本佳世子・谷口智雅・李 ヒョンウク, 日本地理学会発表要旨集, 2009 年度春季学術大会, 3 月 28 日～3 月 29 日, 帝京大学.
- (73) 大学での実践的環境地理教育—三重大の事例 (Practical Environmental Geographic Education in the University- Case Study on Mie University) (2009), 宮岡邦任・朴 恵淑, 日本地理学会発表要旨集, 2009 年度春季学術大会, 3 月 28 日～3 月 29 日, 帝京大学..
- (74) 四日市地域における地表水—地下水の交流関係(1)—地形地質と地下水水位・水温の季節変化 (Surface water- groundwater interaction in the Yokkaichi district (1)- Geology, Geomorphology, and seasonal change of groundwater level and water temperature (2009), 宮岡邦任・朴 恵淑, 日本地理学会発表要旨集, 2009 年度春季学術大会, 3 月 28 日～3 月 29 日, 帝京大学.
- (75) COP10 名古屋開催の意義—環境と果てん 東海の力示せ (2009.2.5.), 朴 恵淑, 朝日新聞 (夕刊学芸録)
- (76) 第 15 回 3 大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム 2008 参加報告書 (2009), 朴 恵淑, 第 15 回 3 大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム 2008, The 15th Tri-University International Seminar & Symposium 2008, Oct.19-24, 2008, Jiangsu University, China, 2009.1, 三重大学国際交流センター, 49-52.
- (77) 四日市学—四日市公害の教訓を活かす環境教育及び国際環境協力(2009), TRIO
- ② 著書 (平成 16～20 年度に発表した本研究に関連した著書の著者名、著書名、出版社名等を記入)
- (1) 環境快適都市をめざして—四日市公害からの提言(2004), 上野達彦・朴 恵淑編著, 中央法規, 342p.

- (2) 地球を救う暮らし方(2005), 朴 恵淑・歌川 学著, 解放出版社, 127p.
- (3) 四日市学—未来をひらく環境学へ(2005), 朴 恵淑・上野達彦・山本真吾・妹尾允史, 風媒社, 232p.
- (4) 四日市学講義(2007), 朴 恵淑編, 風媒社, 304p.
- ③ 国際あるいは国内会議・シンポジウム等の開催状況（会議等の名称、開催時期・場所、参加人数、招待講演者等を記入）
- (1) 第4回国際環境シンポジウム「四日市学」
 ～四日市公害を語る・観る・学ぶ・未来へ繋ぐ～三重四日市からアジアへ
 四日市公害問題の再評価と国際環境協力～, 2004.7.24（土）13:00-17:30,
 三重大学講堂. 350名参加. 朴 恵淑、原田正純、野中昌法、吉田克己、チェ 雲植、
 ユン 性二、田 景、野田之一、沢井余志郎、原田勇男、石原義剛
- (2) 第5回国際環境シンポジウム「四日市学」
 ～人間学・未来学・環境教育学・アジア学～
 四日市公害問題の再評価と国際環境協力～, 2005.7.23,（日）13:00-18:00,
 三重大学講堂. 370名参加, 呉 志哲、董 宗仁、ブラドミル・レブコフ、米本昌平、
 油家 正、森下隆生
- (3) 第6回国際環境シンポジウム「四日市学」
 ～四日市公害から学ぶ～人間学・未来学・環境教育学・アジア学～, 2006.7.8,（土）
 13:00-18:00, 三重大学講堂. 400名参加. 李 明均、シャオ 敏、高木 浩、
 日下部徹男、横山和仁.
- (4) 第7回国際環境シンポジウム「四日市学」
 ～四日市公害問題の過去・現在・未来を問う～, 2007.7.14,（土）13:00-18:00,
 三重大学講堂. 450名参加. 金 仁煥、李 明均、森島昭夫、小山 功
- (5) 第8回国際環境シンポジウム「四日市学」
 ～四日市公害の教訓を活かす 21世紀型地理教育・実践的環境地理教育を探る～,
 2008.7.20,（日）13:00-18:00, 650名参加.
 三重大学講堂. 李 明均、犬井 正、大野 新、梅村松秀.
- (6) 2008年日本地理教育学会大会, 2008.7.20（日）～7.21（月）09:00-17:00、
 三重大学講堂・人文学部棟. 200名参加. 李 明均、朴 恵淑、松岡 守、
 犬井 正., 宮岡邦任.
- (7) 第18回国際生気象学会議
 18th International Congress of Biometeorology,
 2008.9.22.・9.26. 09:00-18:00, 東京タワーホール船堀, 300名,
 Hye Sook PARK, Myungkyoon LEE, Masatoshi YOSHINO, Shouhei YONEMOTO,
 Ayako OKUBO, Yuki MORINAGA.
- ④ 特許出願状況等（当該研究から生まれた出願特許の発明者、名称、出願時期、技術移

転状況等を記入)

なし。

④ 新聞報道等（当該研究から生まれた成果に関する新聞・放送報道等のタイトル、日時、報道メディア等を記入）

- (1) 文化；この人に聞くーテーマ；環境問題と学問；自然への適正負荷計る(2004.4.6.)，中日新聞。
- (2) 「公害から学ぶ四日市学」の初講義ー三重大 (2004.4.16.)，伊勢新聞。
- (3) 三重大で公害テーマ「四日市学」が開講 (2004.4.16.)，朝日新聞。
- (4) ジャーナル 開講 3 カ月” 四日市学” (2004.6.15)，NHK ラジオ。
- (5) 公害研究者集い国際環境シンポ 24 日、三重大で(2004.7.7.)，朝日新聞。
- (6) 国際環境シンポジウム(2004.7.23.)，中日新聞。
- (7) 四日市公害シンポ 津・三重大で 200 人参加(2004.7.25.)，伊勢新聞。
- (8) 四日市公害テーマに 三重大で国際環境シンポ (2004.7.25.)，中日新聞。
- (9) 三重大人文学部フォーラム開催 (2004.9.1.)，読売新聞。
- (10) ほっとイブニングみえ NHK 総合午後 6・10 (2004.9.30)，NHK ニュース・伊勢新聞。
- (11) 特区で産業再生ー公害の教訓生かせるか(2004.11.17.)，毎日新聞。
- (12) みんなでエコ社会ブエノスアイレス COP10 への期待よみかえった「京都議定書」に魂を吹き込め (2004.12.5.)，中日新聞。
- (13) みんなでエコ社会現地報告ブエノスアイレス COP10 各国間の水面下の交渉進む (2004.12.12.)，中日新聞。
- (14) みんなでエコ社会ブエノスアイレス COP10 温暖化対策一歩踏み出す(2004.12.19.)，中日新聞。
- (15) 環境とビジネス両立をー朴三重大教授が強調；津で環境問題講演会 NPO など参加 (2005.2.11.)，伊勢新聞。
- (16) 地球を救う暮らし方ー朴 恵淑・歌川 学著、解放出版社(2005.3.19.)，中日新聞。
- (17) 環境講演会(2005.3.25.)，朝日新聞。
- (18) 公害切り口に四日市学ー三重大で講義始まる朴教授、4 側面説く(2005.4.15.)，伊勢新聞。
- (19) 環境考え省エネ実践！(2005.6.3.)，伊勢新聞。
- (20) 舞鶴・大気汚染「府の対応人ごと」一体の不調長年訴え慨る記念館職員(2005.6.6.)，読売新聞 (夕刊)。
- (21) 舞鶴・大気汚染「府の対応人ごと」一体の不調長年訴え慨る記念館職員(2005.6.7.)，読売新聞 (朝刊)。
- (22) 三重大人文学部に公開ゼミ一年 2 回、8 講座を開設(2005.6.8.)，朝日新聞。
- (23) 公開ゼミ受講しようー三重大人文学部 7 講座受講生募る(2005.6.17.)，中日新聞。
- (24) 三重大教授招き四日市公害通し環境学習ー津のセントヨゼフ女学園中(2005.7.8.)，読売新聞。

- (25) 四日市公害の教訓を環境学習に一23日に三重大でシンポ(2005.7.15.), 中日新聞.
- (26) 国際環境シンポジウム「四日市学」(2005.7.21.), 中日新聞.
- (27) 四日市公害教訓に一学生や市民現地訪れ環境問題探る(2005.7.23.), 読売新聞.
- (28) 四日市公害負の遺産どう生かす一三重大でシンポ環境学習への方策探る(2005.7.24.), 中日新聞.
- (29) 津で国際環境シンポ「四日市学」に300人(2005.7.24.), 伊勢新聞.
- (30) 国際環境シンポ「四日市学」開催(2005.8.1.), フラッシュニュース28号.
- (31) 待ったなし!地球温暖化対策(2005.8.5.), 広報すずか, 7p.
- (32) 教授ら4人が共同出版「四日市学一未来をひらく環境学へ」公害教訓に環境都市へ(2005.8.6.), 伊勢新聞.
- (33) 「四日市学一未来をひらく環境学へ」INFORMATION(2005.8.22.), 中日新聞.
- (34) 四日市公害を環境学習に 大学教授ら4人が本出版(2005.8.24.), 中日新聞.
- (35) 公害の教訓生かそう一三重大教授ら「四日市学」出版(2005.8.30.), 毎日新聞.
- (36) 水俣と呼応する四日市学一展望三重の文芸(2005.10.1), 朝日新聞.
- (37) 環境保護特集一持続可能な社会が大切(2005.10.12.), 東海けいざい.
- (38) 地球温暖化防ごう:鈴鹿でシンポ(2005.10.16.), 伊勢新聞.
- (39) 豊かな海と環境考える:伊勢・志摩海洋国際会議27日開幕(2005.10.22.), 中日新聞.
- (40) 伊勢湾環境巡り学者ら問題提起:伊勢で国際会議(2005.10.28.), 朝日新聞.
- (41) 伊勢・志摩海洋国際会議:” 地球” の自然再生を(2005.10.28.), 中日新聞.
- (42) 「豊かな海と明日の環境」テーマに海洋国際会議が開幕:伊勢 (2005.10.28.), 伊勢新聞.
- (43) 伊勢・志摩海洋国際会議:豊かな海と明日の環境考える一4分科会で論議(2005.10.28.), 毎日新聞.
- (44) 京都議定書第1回締約国会議を終え一朴 恵淑・三重大教授に聞く(2005.12.22.), 中日新聞.
- (45) ISO取得へ三重大生始動一環境に優しいキャンパス(2006.1.17.), 中日新聞.
- (46) 学生主体で環境ISO取得を「四日市公害経験した県 先進大学に」(2006.2.22.), 毎日新聞.
- (47) 三重大生、取得へ挑戦一環境ISO学生主体へ全国で異例(2006.2.22.), 読売新聞.
- (48) 環境ISO認証取得キックオフ宣言(2006.2.28.), Flash News, 第34号.
- (49) 「エコ大学」へ推進室一三重大、「環境ISO」来秋取得目指す(2006.3.23.), 朝日新聞.
- (50) 大観小観(2006.6.16.), 伊勢新聞.
- (51) 四日市公害から環境問題考える一來月8日三重大でシンポ(2006.6.23.), 中日新聞.
- (52) 四日市公害から環境問題考える一三重大で国際シンポ(2006.7.9.), 中日新聞.
- (53) アジアの環境問題を考える一三重大でシンポ(2006.7.9), 毎日新聞.
- (54) 三重大で環境シンポ一朴教授ら四日市公害テーマに講演(2006.7.9.), 伊勢新聞.
- (55) 国際環境シンポ「四日市学」一三重大公害の経験を基に参考(2006.7.26.), 東海けいざい.

- (56) 「ISO」取得目指す三重大一学生主体でエコキャンパス(2006.8.15.), 中日新聞.
- (57) 第6回国際環境シンポジウム「四日市学」開催(2006.9.30.), Flash News 第40号.
- (58) 環境保護特集(2006.10.11.), 東海けいざい.
- (59) 三重大環境報告書一県との比較内容を併記(2006.11.20), 毎日新聞.
- (60) 中部電力との環境報告書意見交換会(2006.11.30.), Flash News 第42号.
- (61) 京都議定書ナイロビ会議(2006.12.15.), 中日新聞(夕刊).
- (62) 研究室発三重大人文学部(環境地理学)朴 恵淑教授一公害の遺産もとに「四日市学」提唱(2006.12.26.), 中日新聞.
- (63) 「第10回環境コミュニケーション大賞」で優秀賞(環境配慮促進法特定事業者賞)に輝く(2007.2.28.), Flash News 第45号.
- (64) 第6回国際環境シンポジウム「四日市学」開催(2006.9.30.), Flash News 第40号.
- (65) 「第10回環境コミュニケーション大賞」表彰式に出席(2007.4.30.), Flash News 第47号.
- (66) 温暖化防止考える一県庁でエコ・フォーラム(2007.5.31.), 伊勢新聞.
- (67) 公害県から環境先進県へ温暖化防止に提言(2007.6.3.), 伊勢新聞.
- (68) 三重を環境先進県に一四日市公害例に講演や意見交換(2007.6.3.), 中日新聞.
- (69) 環境保護活動を紹介(2007.6.3.), 読売新聞.
- (70) 温暖化をみんなで防ごう! エコ・フォーラムで啓発(2007.6.8.), 三重タイムズ.
- (71) 持続可能な社会へ対策を急げ一地球環境の現状と課題「座談会」(2007.7.3.), 中部経済新聞.
- (72) 「四日市公害を知ろう」三重大きょうシンポ(2007.7.14.), 毎日新聞.
- (73) 四日市公害から環境考える一判決35周年で「四日市学」記念シンポに300人—三重大(2007.7.15.), 伊勢新聞.
- (74) 四日市公害の教訓生かそう—三重大で国際環境シンポ(2007.7.15.), 読売新聞.
- (75) 「公害は終わってない」—三重大で「四日市学」シンポ(2007.7.15.), 中日新聞.
- (76) 公害経験どう生かす—300人参加し三重大で国際シンポ「四日市学」(2007.7.15.), 毎日新聞.
- (77) 公害問題の入門書—3年間の三重大講義「四日市学」を出版(2007.7.18.), 中日新聞.
- (78) NHKほっとイブニングニュース「四日市公害から学ぶ四日市学」(2007.7.18.), NHK.
- (79) 四日市公害訴訟判決35周年記念国際環境シンポジウム「四日市学」を開催(2007.7.31.), Flash News, 第50号.
- (80) 国際環境シンポ「四日市学」—三重大 公害の経験を基に考察(2007.7.26.), 東海けいざい新聞.
- (81) 四日市公害訴訟判決35周年記念国際環境シンポジウム「四日市学」を開催(2007.7.31.), Flash News 第50号.
- (82) 四日市学講義—四日市公害の現代的再評価(2007.8.19.), 伊勢新聞.

- (83) 新刊選—朴 惠淑編「四日市学講義」(2007.8.26.), 中國新聞.
- (84) 「四日市学講義」朴 惠淑編(2007.10.1.), 日刊工業新聞.
- (85) Book Review「四日市学講義」朴 惠淑編(2007.11.), 論座.
- (86) 公害を題材に教育考えよう—日本地理学会があす公開シンポ(2007.10.6.), 熊本日日新聞.
- (87) 環境問題には垣根超え対応を(2007.10.8.), 熊本日日新聞.
- (88) 全国環境セミナーあすから三重大で(2007.10.26), 中日新聞.
- (89) 全国環境セミナーが開幕—三重大四日市公害も報告(2007.10.28.), 伊勢新聞.
- (90) 環境問題身近なことから一津で温暖化防止会議(2007.12.2.), 伊勢新聞.
- (91) 三重大が環境 ISO 取得—取り組み 2 年、全学部一斉に一認証授与、継続を誓う(2007.12.12.), 伊勢新聞.
- (92) 「環境に配慮を」呼び掛け—朴教授が亀山高生に講演(2007.12.15.), 中日新聞.
- (93) 「四日市学」開講から 3 年—公害を教訓に三重大の環境教育(2007.12.18.), 中日新聞.
- (95) 環境と経済見据える先進地に—三重大学人文学部朴 惠淑教授(2007.1.7.), 朝日新聞.
- (96) 四日市公害の教訓を活かした「環境教育」に力を注ぐ三重大教授朴 惠淑さん(2008.3.11.), 読売新聞(指定席).
- (97) エネルギー環境教育成果報告会(2008.3.14.), 中日新聞.
- (98) 「エネルギー環境教育」報告会—取り組みの成果を披露—三重大(2008.3.16.), 読売新聞.
- (99) 市民フォーラム：温暖化防止を考えよう—野洲/滋賀(2008.3.23.), 毎日新聞.
- (100) 知ろう・わかれよう・始めよう！地球温暖化防止(2008.3.27.), 中日新聞.
- (101) ストップ温暖化大作戦—アストで活動発表と講演会—29 日(2008.3.27.), 三重ふるさと新聞.
- (102) 環境先進大学「ISO14001」認証取得(2008. Spring), vol.13, 三重大 X, 1-4.
- (103) 「エネルギー環境教育成果発表会」を開催(2008.3.31.), Flash News, 第 57
- (104) 生物多様性目標を進化—「環境人材」活躍の場—朴 惠淑・三重大教授に聞く(2008.6.6.), 朝日新聞.(社会 26 面)
- (105) 6 日に名張で母親大会開催—三重大教授が講演(2008.7.1.), 伊勢新聞.
- (106) 「輝かしい今年の梨花人」賞(2008.7.), WAVE MIE UNIV., 38. 23p.
- (107) キャンパスからエコ活動(2008.7.7.18:10-18:30), NHK ほっとイブニング
ニュース.(東海 3 県)
- (108) キャンパスからエコ活動(2008.7.9.04:30-05:00), NHK おはよう日本.(全国
放送).
- (109) 公害教育テーマ四日市学シンポ—20 日に三重大(2008.7.9.), 伊勢新聞.
- (110) 四日市公害の教訓—教育に生かそう—20 日に国際シンポ(2008.7.15.), 中
日新聞.
- (111) 四日市公害シンポジウム(2008.7.20.), NHK 三重のニュース.

- (112) 四日市公害教訓次代に一三重大シンポ(2008.7.21.), 伊勢新聞.
- (113) 公害都市の経験生かし方を考える—三重大で「四日市学」国際環境シンポ(2008.7.21.), 毎日新聞.
- (114) 四日市学—若い人材の育成を一シンポで三重大教授強調(2008.7.21.), 中日新聞.
- (115) 知事トーク in キャンパス(2008.7.31.), Flash News, 第 61 号.
- (116) 環境教育論三重大 朴 恵淑教授(54)—いっしょに学ぼう—次代に残す自然考える(2008.8.30.), 朝日新聞.
- (117) 県推奨の「M-EMS」認証事業所 100 件に一四日市商工会議所や万協製薬も(2008.9.2.), 伊勢新聞.
- (118) 県のマネジメントシステム—四日市商議所が取得(2008.9.9.), 中日新聞.
- (119) 第 8 回国際環境シンポジウム四日市公害から学ぶ「四日市学」(2008.9.30.), Flash News, 第 62 号.
- (120) 文部科学省の平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム (教育 GP)」に採択(2008.10.31.), Flash News, 第 63 号.
- (121) 美し国みえエコ 1・2・3 運動(2009.1.18.), 三重テレビおすすめ番組, 中日新聞.
- (122) 容器包装 3R 全国大会(2009.1.28.), 環境新聞.
- (123) 「平成 20 年度容器包装 3R 推進環境大臣賞」優秀賞を受賞(2009.1.31.), Flash News, 第 66 号.
- (124) COP10 名古屋開催の意義—環境と発展 東海の力示せ(2009.2.5.), 朝日新聞 (夕刊).